

県都デザイン戦略 骨子（案）

I 趣 旨

◎背 景

- ・ 戦災、震災から60年余りが経過し、建物や都市インフラの更新時期が到来
- ・ 北陸新幹線の県内延伸など、重要な交通インフラ整備の進展をひかえ、重要性を増す県都の位置付け
- ・ 厳しさを増す地域間競争（外的要因）や、本格的な人口減少、超高齢化、地球温暖化等の諸問題（内的要因）への対応の必要性

◎目 的

- ・ これを機として県都の再設計を構想し、福井県の経済、社会、文化の中心地としての新たな都市像を提示
- ・ 全体性と長期的な視点を持って都市を再編し、次の時代に受け継ぐ県都を実現

（検討の視点）

[建物更新等にあわせた都市の再構築]

- ・ 県庁舎、市役所をはじめとした中心市街地や郊外の公共施設等の移転・再配置を想定し、都市の再構築の方向性と実現に向けた手段を提示

[短期的事業の具体化と中長期構想の提示]

- ・ 短期的に実現する事業と、将来の世代が議論を深め具体化する中長期的な構想を提示。中長期的な構想については、方向性と実現に向けた手段を提案

[新たに未来の歴史をつくる]

- ・ 歴史や伝統を大切にしながら、県民が誇りを持てる、県都の新しい歴史となる魅力を形成

[県民・市民との協働]

- ・ 県民・市民と将来像を共有し、行政に加え、民間の盛り上がりや協力、応援のもとでビジョンを実現

◎目標年次

2050年

短期目標年次 2018年 福井国体開催

中期目標年次 2025年 北陸新幹線敦賀開業

◎対象エリア 福井市都市計画マスタープランにおける「まちなか地区」を想定

◎県都のめざす姿

[城が象徴する歴史をつなぐ都市の形成]

- ・埋もれた歴史を掘り起こし、新たな県都の顔として、城を礎に発展した歴史を象徴する空間を形成
- ・城下町の名残や近代化、復興の記憶など、地域の歴史を目に見えるかたちで復活・保存し、次代へ継承

[伝統を大切に、新たな文化を創造する都市の形成]

- ・駅を中心に、文化や交通が発達し、人を惹きつけ、新たな活動を生み出す都市本来の魅力を拡大
- ・芸術・文化、自然との共生など、創造的な営みに身近に触れ合える都市を実現

[緑豊かで暮らしやすい庭園のような都市の形成]

- ・貴重な生態系を残す足羽山、足羽川に象徴される、緑豊かで、美しい街並みの都市を形成
- ・空間に余裕があり、誰もが移動しやすく、暮らしやすい都市を形成

Ⅱ デザインの内容

1. 歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都の形成

(1) 歴史を象徴し、人が集まる中心となる「福井城址公園」の整備

福井城址を、城下町福井を象徴する最も重要な歴史資源として活かし、人が集まる魅力的な県都を維持していくため、県庁舎、市庁舎を移転・再配置し、城址公園として再編する。

【実現化方策】

○城址、中央公園などを一体化した「福井城址公園」の整備

城址内、市庁舎跡、中央公園、県民会館跡地一帯とその周辺も含めて、「福井城址公園」として整備

中央公園内での遺構活用、城址内での復元、広場と豊かな緑の配置、新たな文化拠点の整備により、歴史と緑と憩いの空間、文化や活動の拠点を形成

復元にあたっては、県民、市民に寄付を募るなど気運を醸成して順次推進

(2) 地域の歴史を実感できる都市空間の形成

誇りを持って自慢できる、風格や奥行きのある都市を実現するために、近代化や戦災・震災復興で埋もれた城下町の歴史を掘り起し、地域の歴史を物語る建造物等を大切にし、歴史の厚みを感じられる都市空間を形成する。

【実現化方策】

○地域ごとの歴史を生かした景観形成

養浩館周辺、浜町、愛宕坂、足羽山麓寺町、呉服町、福井城址周辺等を歴史的境界と位置付け、歴史的景観づくりを誘導

○歴史資源をつなぐ、歴史・文化の回廊形成

養浩館、福井城址、北の庄城址、浜町、愛宕坂といった歴史資源やエリアをつなぐ南北の道路、まち並みなどを整備

○歴史的建造物の保全・活用

福井地方裁判所、三井住友信託銀行（旧福井信託銀行）、セーレン本社ビル、聖三一教会、浜町の料亭、戦後の商家建築などの歴史的建造物を保全・活用

○城下町の名残を旧町名、通りの名称として復活

城址周辺～旧北国街道沿いのエリアにおいて、旧町名を復活
福井城址周辺の通りを、百間堀通り、堀端通りなどの名称に変更

(3) 文化を受け継ぎ、育てる県都の実現

芸術・文化に触れる機会が少ない現状を改善し、人が集い、感性や知性を育み、新たな文化を創造する都市の魅力を高めるため、文化機能が集約された中心地へと再構築する。

さらに、新幹線開業の機をとらえ、福井が培ってきた、漆器、眼鏡、打刃物等、優れたものづくり文化や豊かな食文化に触れる機会を増やし、外に発信する拠点を整備する。

【実現化方策】

○福井城址公園周辺への文化拠点の配置

子供から大人までが、芸術・文化に触れ合い、創作活動で利用できる場、福井のものづくり文化を発信する場を整備

○福井の「食」を集め、食文化を発信する機能の配置

旬の農林水産物を買える「市場」や、おろしそばなど福井を代表する料理を楽しむ拠点を整備するなど、福井の「食」を発信する機能を充実

○文化活動、まちづくり活動を生み出す市民のための空間の形成

低未利用地（駐車場など）を活用して、文化活動やまちづくり活動が展開できる、市民のための空間を創出

2. 美しく持続可能な都市の実現

(1) 緑豊かな風格ある都市への再編

緑の不足、景観の不統一などの課題を解決するため、都市の中に豊かな緑を増やし、建物や公共施設のデザインを誘導するなど、美しい都市づくりを行う。

新幹線開業や建物の更新時期の到来の機を捉え、増加している空地の集約化、民間投資が促進される街区の再編の仕組みの構築、公共施設の城址周辺への移転・再配置等を進め、人が集う、緑豊かな都市空間を実現する。

【実現化方策】

○駅周辺、城址周辺街区の再編・デザイン誘導と公共施設の再配置

公共施設を含め、建物の更新時期を捉えた周辺街区の再編を実施

あわせて、緑をつなぎ堀を活かす駅周辺、城址周辺街区のデザイン誘導

○まちなかの魅力を高める低未利用地の活用

虫食い状に増加する低未利用地を、緑の広場としたり、市民が利活用できる空間として利用転換

○都市の骨格となる「緑のシンボル軸」の形成

東西・南北の大通りを、緑豊かなシンボル軸として整備

車優先の道路から歩行者中心の市民活動が発生する空間へと利用転換

○再開発ビル・広場の一体的整備と城址へつながる緑豊かな県庁線の整備

まちの第一印象を決める広場等の整備と城址へつながる動線・見通しの確保

(2) 人や環境に優しい交通ネットワークの実現

基幹的な公共交通沿線への居住地の誘導など、都市構造との関係性を考慮した戦略的な交通路線を整備し、コンパクトで持続可能な都市を形成する。

また、自動車交通量の減少や自動車の小型化にあわせ、道路空間の再配分による歩行者・自転車を重視した交通環境を整備する。

高齢化社会に対応し、過度に自動車に依存せずとも移動可能な、多様な移動手段を確保し、環境負荷の低い都市を実現する。

【実現化方策】

○都市構造を形づくる東西・南北交通の強化

きめ細やかで利用しやすい公共交通網の整備

福井駅を中心とした基幹交通体系を整備し、居住を誘導

○駅を中心とする交通結節機能の強化

福井駅、田原町駅での鉄道、バス等、交通機能の結節強化

○歩きやすく雨・雪に強い歩行者空間の形成

子どもや高齢者等、多様な歩行者が歩きやすく、雨・雪に濡れない歩行環境の整備

○まちなかでの移動に便利な自転車ネットワークの形成

短距離移動手段の一つとして自転車利用を促進

○超小型EVなど、次世代の交通システム導入

高齢者や主婦等の短距離移動手段の一つとして超小型EVの導入促進

3. 自然を守り、緑や水と共生する都市の形成

(1) シンボルとしての足羽山、足羽川と緑がつながる空間の形成

都市内の大切な自然資源である足羽山、足羽川を、四季を感じられる、まちなかの自然のシンボルとして、市民全体で保全・活用する。

里山として市民が自由に利用するための所有者、利用者双方の協力や、シンボルとして映える眺望景観を保全・創出するための規制導入など、保全・活用を行う。

【実現化方策】

○足羽山・足羽川の緑・生態系の保全

足羽山・足羽川の貴重な生態系を市民全体で保全

○自然学習・環境教育の場としての足羽山の活用

都市に隣接する里山として、市民や子ども達の学びの場として活用し、使いながら森を守る活動を拡大

○足羽山・足羽川の眺望を守り、緑をつなぐ景観づくり

足羽山・足羽川の眺望を守り、まちなかに緑を広がる都市空間を実現

(2) 文化と活動の空間としての足羽山、足羽川の再生

足羽山、足羽川を、子供から大人まで、県民・市民が文化を感じ、日常的に楽しむ場として再生する。

橘曙覧記念文学館、茶道美術館や、横井小楠宅、由利公正宅、三秀園、産物会所跡など、文化資源を活かす。

【実現化方策】

○「文化の杜」としての足羽山の再生

足羽神社の参道として栄え、文化人が集まった歴史をふまえ、アトリエや工房を誘致するなど、創作的な活動ができる文化空間を形成

○水辺と桜堤を生かした足羽川での活動空間の形成

水辺を生かして、親子で遊び、楽しむことができる環境を形成

○食と文化を楽しむ空間としての足羽川周辺の魅力向上

足羽川の水辺と浜町等の足羽川周辺の環境を生かした、文化的な雰囲気づくり

Ⅲ 推進方策

市民意識を醸成し、協働する仕組みづくり

県民・市民・大学やまちづくり団体等とともにビジョンを共有し、公共空間をつくりあげる機会や場を創出
社会実験やワークショップ、歴史的資源の復元に向けた寄付募集などを実施

デザインマネジメントの徹底

将来に渡って質の高いデザインを担保する県、市、専門家によるデザインマネジメント体制を整備

県内外からの英知を集め、空間デザインに活用

プロジェクトの実施に当たっては、アイデアコンペ等を実施し、空間デザインに県内外の英知を集結